

## 第 19 回環境情報科学センター賞 受賞者

### 学術論文奨励賞

**受賞者：高木 祥太 氏**（名古屋産業大学大学院環境マネジメント研究科  
／現 名古屋産業大学環境経営研究所）



**対象業績：生活環境圏における CO<sub>2</sub>濃度データの検証と環境教育への応用に関する一連の研究**

#### 【受賞理由】

受賞者は、2018 年度の環境情報科学センター特別賞を受賞した名古屋産業大学環境教育研究プロジェクトの一員であり、同特別賞の評価対象に含まれる 2 論文のファースト・オーサーである。当該 2 報は生活環境圏における CO<sub>2</sub>濃度の変化に着目して地域環境の評価を行うこと自体を主な目的とするものであった。今回推薦のあった「学術論文奨励賞」の対象論文はそれらも含むが、さらに 2018 年の学術研究論文集に新たに掲載されたものを主たる対象としている。新論文は、高等学校における探求的な学習活動に適応する環境教育プログラムの開発とその教育効果を中心とするものである。具体的には、高校生に基礎知識と測定機器操作方法を身につけさせた上で、文部科学省が昨年 7 月に公表した「高等学校学習指導要領解説：総合的な探求の時間編」で示されている【課題の設定】→【情報の収集】→【整理・分析】→【まとめ・表現】という各プロセスに合致する学習活動を CO<sub>2</sub>濃度を題材として主体的に実施させる教育プログラムを開発した。さらに日本と台湾の 5 校で実践した上で、教育効果をアンケート調査によって確認した点も実証的研究として評価できる。また、身近な地域における実践を通して環境意識を高める教育効果も期待されるプログラムとなっている。

以上の点から、受賞者の一連の研究は、生活環境圏における CO<sub>2</sub>濃度データの検証を題材として環境教育を実践し、その実践と科学的検証を論文としてまとめたものとして完成度が高く、環境情報科学センター賞・学術論文奨励賞に十分該当するものと判断した。

#### <対象論文>

- ①高木祥太・伊藤雅一・岡村 聖（2017）生活環境圏における CO<sub>2</sub>濃度の変化パターン～環境情報としてのデータ解釈の有効性に着目して. 環境情報科学, 46-2, 62-70.
- ②高木祥太・伊藤雅一・岡村 聖・鄭 敏学（2017）生活環境圏における CO<sub>2</sub>濃度の分布パターン～地域環境評価の基礎となる CO<sub>2</sub>濃度の動態に着目して. 環境情報科学学術研究論文集 31, 311-316.
- ③高木祥太・伊藤雅一・岡村 聖（2018）生活環境圏の CO<sub>2</sub>濃度データを利用した環境教育プログラムの開発とその教育効果—探求的な学習活動としての有効性に着目して. 環境情報科学学術研究論文集 32, 149-154.